

ICOM

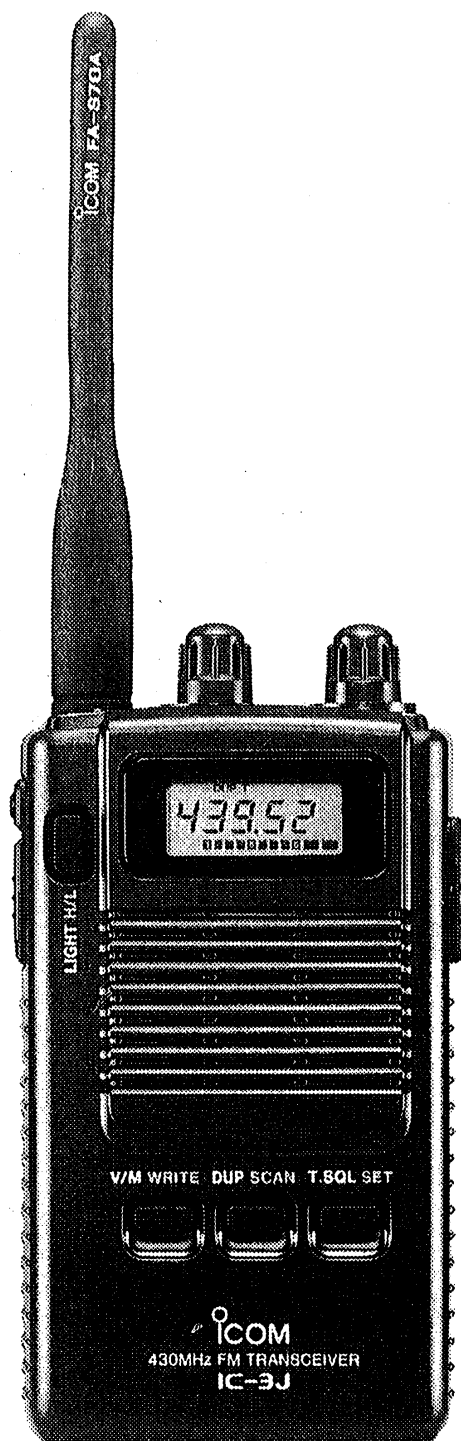
取扱説明書

430MHz FM TRANSCEIVER

IC-3J

この無線機を使用するには、郵政省のアマチュア無線局の免許が必要です。また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

Icom Inc.



はじめに

このたびはIC-3Jをお買い上げいただきましてありがとうございます。
ます。

本機は、430MHz帯の超小型・簡単操作のFMハンドヘルドトランシーバーです。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくと共に、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

目 次

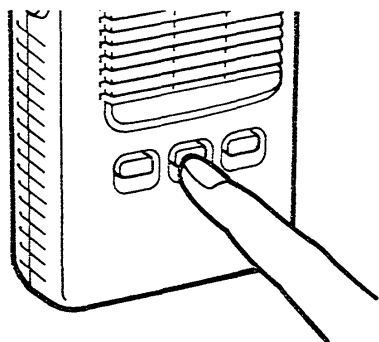
1. ご使用のまえに	1
● 付属品	1
● 電池のセット	1
● アンテナの取り付けかた	2
● ハンドストラップの取り付けかた	2
■ 簡単な操作のしかた	3
2. 各部の名称と機能	4
3. 基本操作のしかた	7
● 電源のON/OFF、音量の調整	7
● 運用周波数の設定	8
● 受信のしかた	9
● 通信のしかた、送信出力の設定のしかた	10
4. レピータ運用のしかた	11
5. トーンスケルチ運用のしかた	13
6. メモリーの使いかた	14
● メモリーモードにするには	14
● メモリーのしかた	15
● メモリーチャンネルの呼び出しかた	16
7. スキャンのしかた	17
● スキャンの種類と動作	17
● スキャンのスタート/ストップ	18
8. セットモードについて	19

●セットモードの操作	19
●セットモードの項目	20
9. イニシャルセットモードについて	22
●イニシャルセットモードの操作	22
●イニシャルセットモードの項目	23
10. その他の機能	27
●LCDバックライト、減電圧表示機能	27
11. 大切に長くお使いいただくために	28
●電池について、リセット操作について	28
●故障かなと思っても	29
●アフターサービスについて	30
12. 免許の申請のしかた	31
13. オプション	34
14. 定格	35
15. ご注意	36

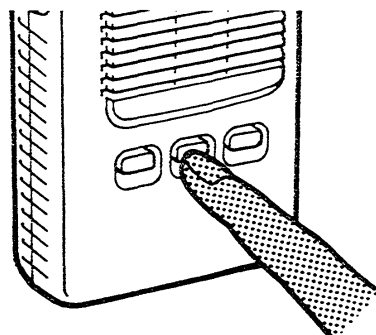
操作説明のイラストについて

- 操作説明用のイラストは、スイッチを押すとき、短く押す(1Push)か長く押す(1秒押し)かを図のように区別しています。

- 短く押すとき
(ピッ音が出る)



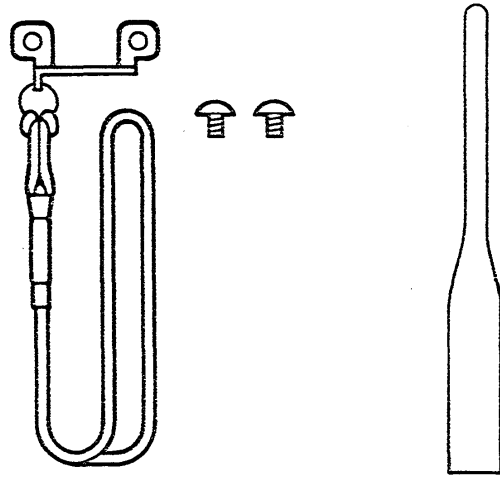
- 長く(約1秒)押すとき
(ピッピッ音が出る)



1 ご使用のまえに

付 属 品

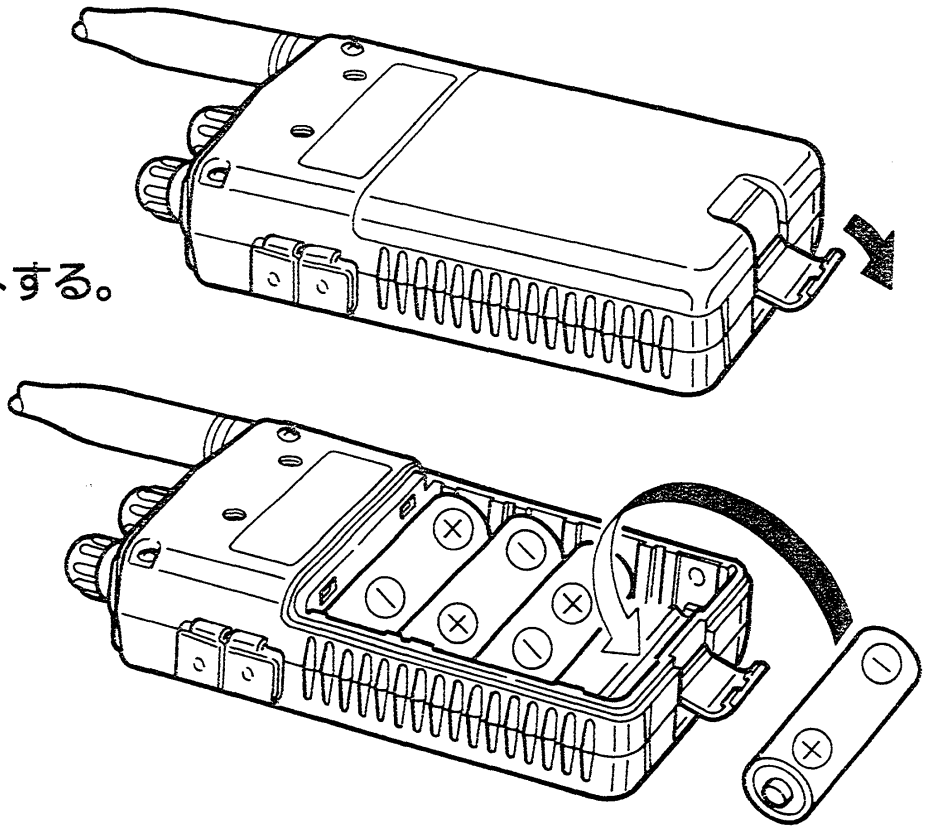
1. アンテナ
 2. ハンドストラップ
- 取扱説明書
 - 保証書
 - 愛用者カード



電池のセット

1. バッテリーカバーをはずす。
ロックレバーをはずし、カ
バーをはずしてください。

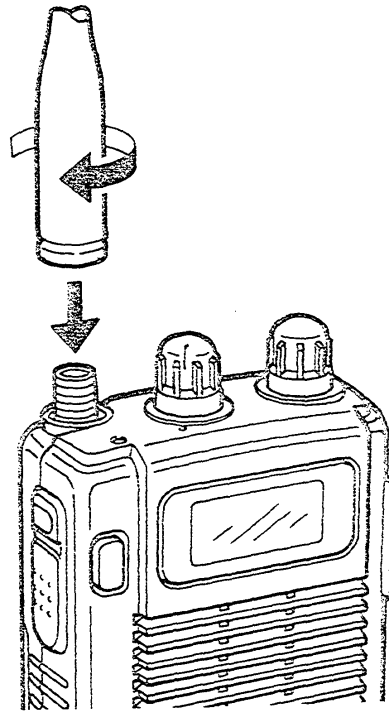
2. 電池をセットする。
電池は4本
収容します。



※電池の極性⊕、⊖をまちがえないようにしてください。

アンテナの取り付けかた

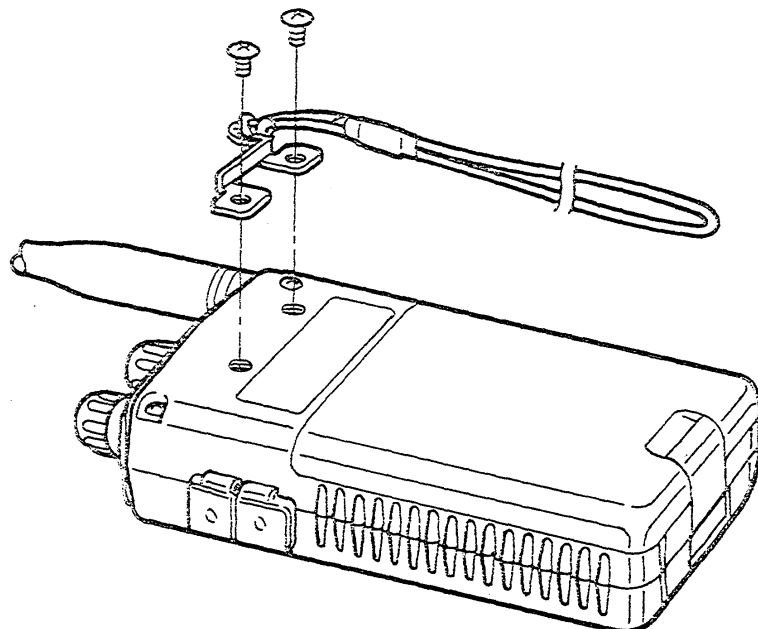
アンテナはネジ式です。



※故障の原因となりますのでアンテナはユルミのないようにしっかり固定してください。

ハンドストラップの取り付けかた

図のように付属のビスで取り付けてください。

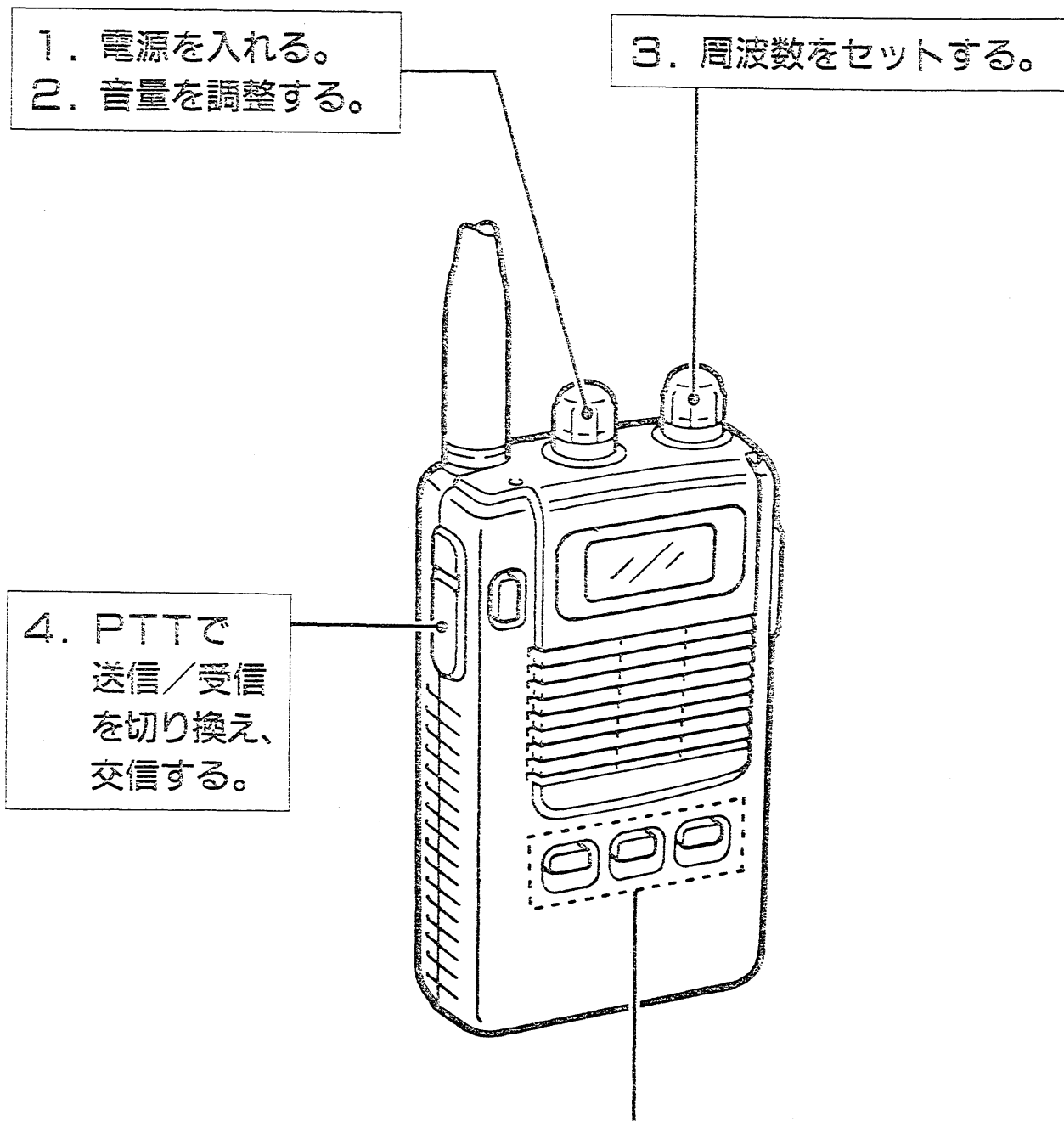


1 ご使用のまえに

簡単な交信のしかた

■本機は、簡単操作のトランシーバーです。

基本的な操作は、7～10ページで説明していますが、下記の操作だけで、簡単に交信できます。



このスイッチの説明は、11ページからご覧ください。
このスイッチを使用しないときは、(P22、23①)のイニシャル
ロック機能で無効にすることができます。

上面操作パネル

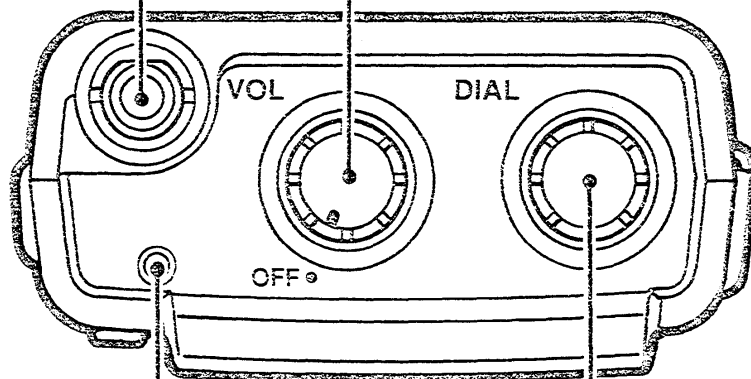
■アンテナコネクタ

アンテナを接続します。
SMA型コネクタを使用
すれば外部アンテナも接続
できます。

■PWR(電源)スイッチ/ VOL(音量)ツマミ

電源のON/OFFと音量
を調整するツマミです。

(⇒P7)



■送信/受信LED

送信時は赤色に、受信時は
緑色に点灯します。

■ダイヤル

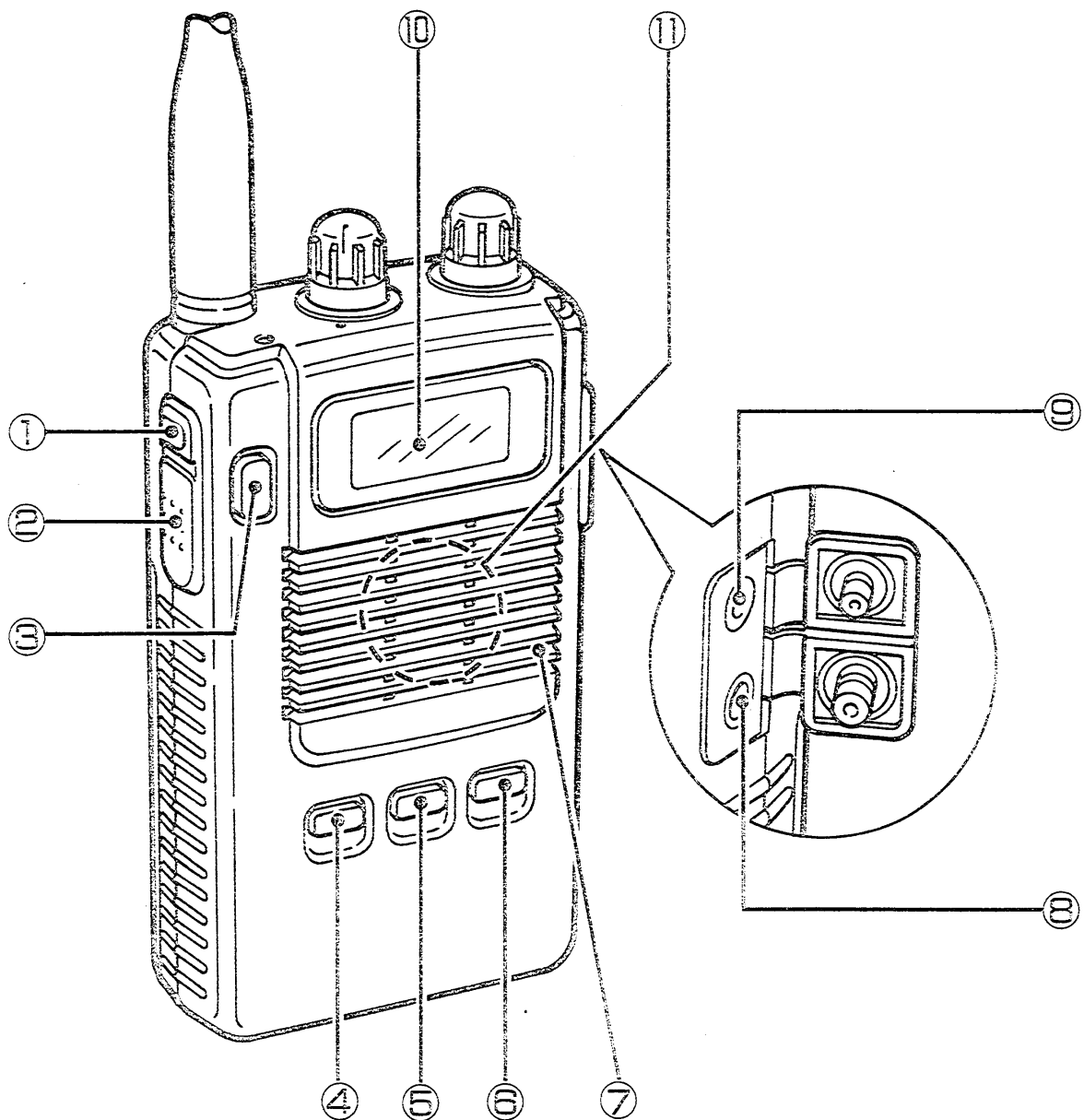
VFOモードのとき、運用
周波数の設定。 (⇒P8)

メモリーモードのとき、メ
モリーチャンネルの呼び出
しができます。 (⇒P15)

その他、各種の設定操作に
使用します。 (⇒P19、22)

2 各部の名称と機能

前面・側面操作パネル



①MONI(モニター)スイッチ

強制的にスケルチを開くスイッチです。弱い信号の受信に使用します。(P9)

このスイッチを押しながら電源を入れると、スケルチオープン状態(モニタースイッチを押したままの状態)の受信ができます。

② PTT(送信)スイッチ

押すと送信、離すと受信状態になります。

スキャン停止(⇒P18)、セットモード解除(⇒P19)にも使用します。

③ LIGHT(ライト)/H/L(ハイ/ロー)スイッチ

ディスプレイの照明をON/OFFします。

長く押すと、送信出力の切り換えができます。

④ V/M(VFO/メモリー)/WRITE(ライト)スイッチ

VFOモード、メモリーモードの切り換えスイッチです。

長く押すと、メモリーの書き込みができます。 (⇒P8、18)

⑤ DUP(デュプレックス)/SCAN(スキャン)スイッチ

デュプレックス(+/-)シンプレックスの切り換えスイッチです。
(⇒P12)

長く押すと、スキャンのスタート/ストップ動作をします。

(⇒P18)

⑥ T,SQL(トーンスケルチ)/SET(セット)スイッチ

トーンスケルチのON/OFFをします。 (⇒P13)

長く押すと、セットモード設定状態になります。 (⇒P19)

⑦ マイクロホン

⑧ MIC(マイクロホン)ジャック

} オプションのマイクや
スピーカーが接続できます。

⑨ SP(スピーカー)ジャック

(⇒P34)

⑩ スピーカー部

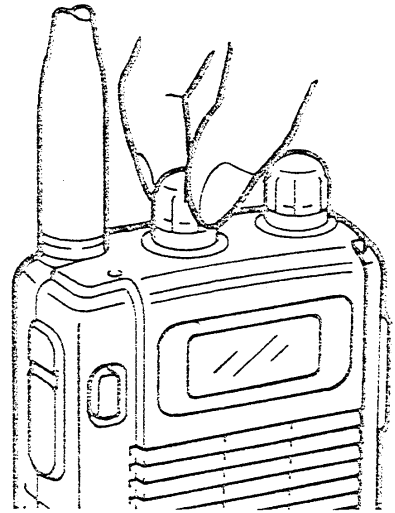
⑪ ディスプレイ

3 基本操作のしかた

電源のON/OFF

1. **PWR** スイッチをまわす。

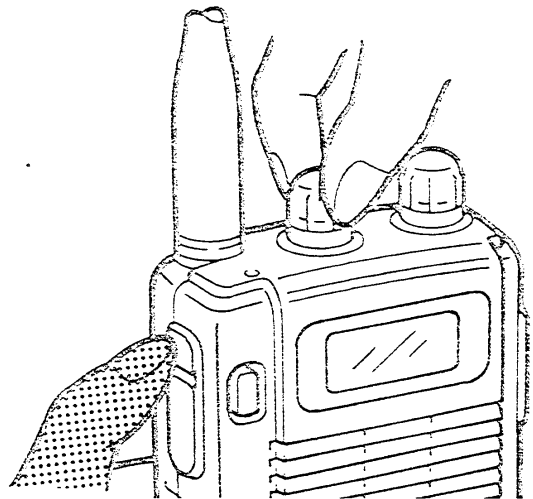
●ディスプレイ部が点灯します。



音量の調整

1. **MONI** スイッチを押しながら **VOL** ツマミをまわす。

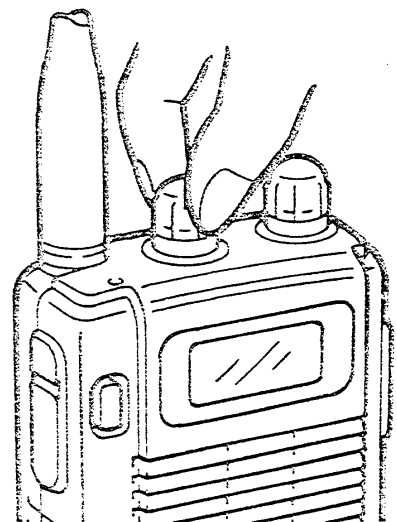
※「ザー」という雑音の大きさを調整します。



受信信号が聞こえる場合は

1. **VOL** ツマミをまわす。

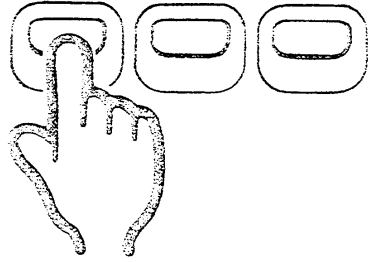
●右にまわすと音が大きくなり
左にまわすと小さくなります。



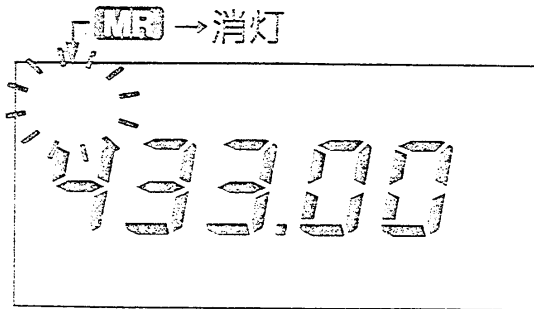
運用周波数の設定

1. **V/M** を押し
VFOモードにする。

V/M WRITE DUP SCAN T.SQ L SET



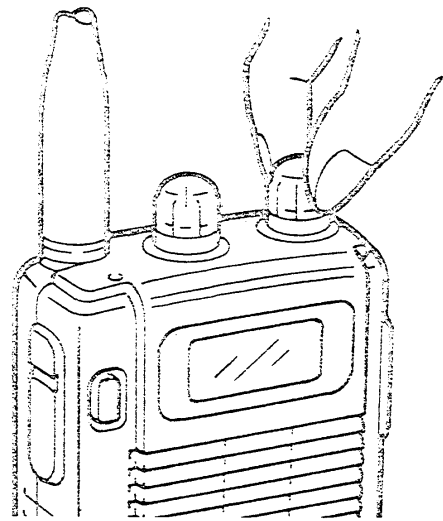
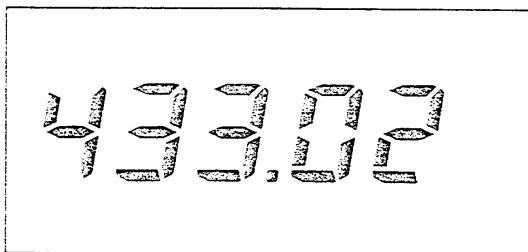
VFOモードの表示例



- **V/M** は、1回押すごとにVFOモードとメモリーモードに切り換わります。

2. **ダイヤル** をまわす。

- **ダイヤル** をまわすと20kHzステップで周波数が変化します。



- 右にまわすとアップ、左へまわすとダウンします。

※20kHzのほかにイニシャルセットで、6段階のチューニングステップ(TS)が選べます。(=P25)

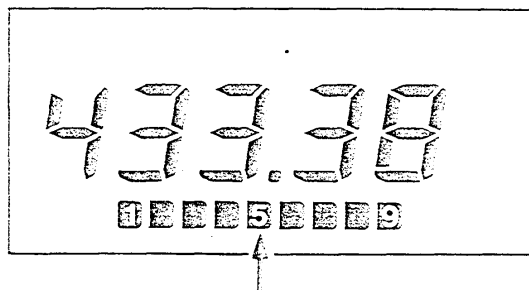
※ダイヤルを早くまわすと、オートステップ機能により、すばやく周波数のセットができます。

3 基本操作のしかた

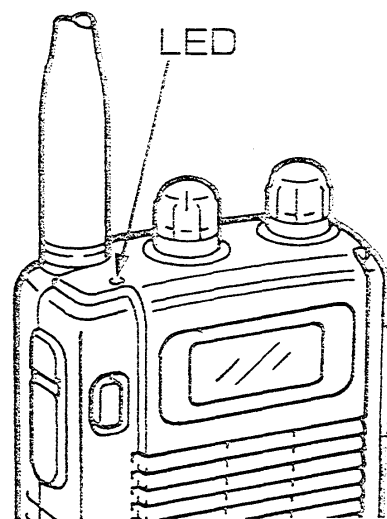
受信のしかた

1. **PWR** スイッチで電源をONにする。
2. **VOL** ツマミで音量を調整する。
3. **V/M** でVFOモードにする。
4. **ダイヤル** で受信周波数を設定する。
5. 信号を受信すると—————

受信LED(緑色)が点灯し
音声が聞こえてきます。

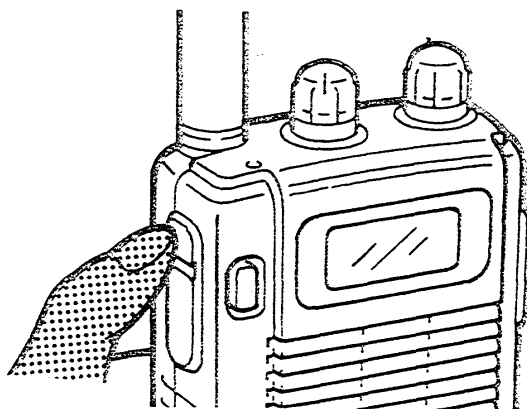


Sメーター/受信信号の強さに応じた表示



信号が聞こえにくいときは(受信モニター機能)

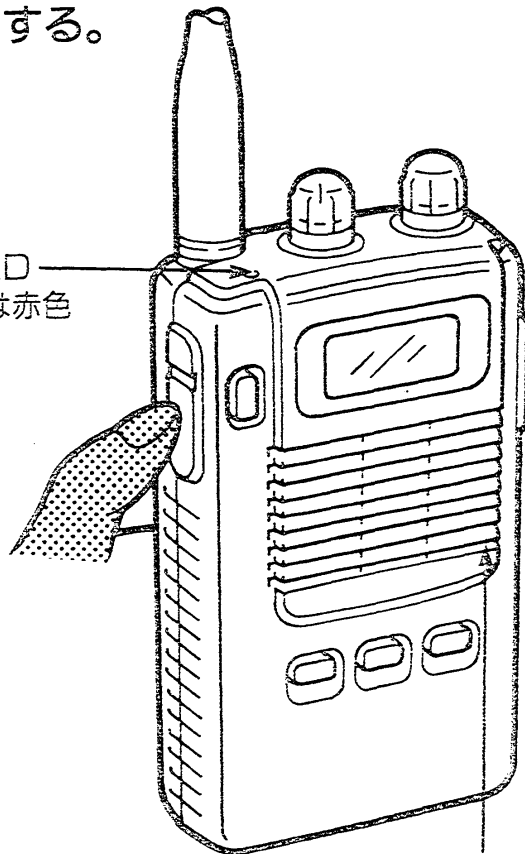
1. **MONI** スイッチを押しながら受信する。



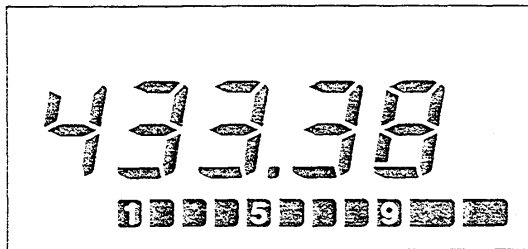
送信のしかた

1. **ダイヤル** で交信周波数をセットする。
2. **PTT** スイッチを押しながらマイク部に向かって話す。

送信LED
送信中は赤色
点灯。



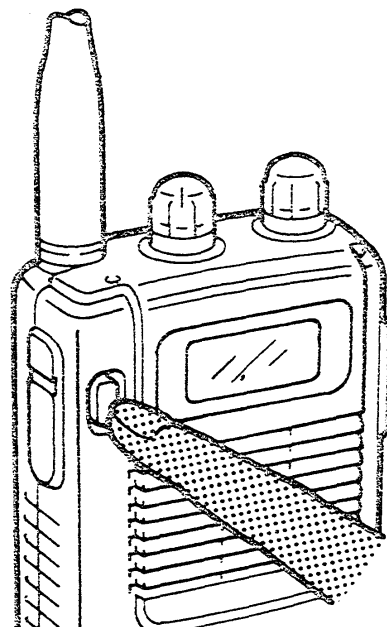
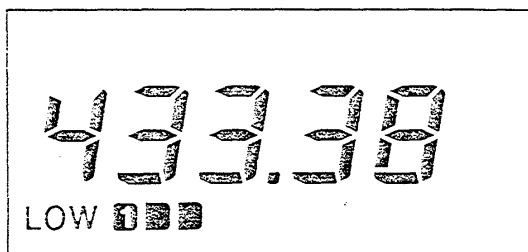
マイク部



3. **PTT** スイッチを離すと、受信に戻ります。

送信出力の設定のしかた

1. **H/L** を長く押す。
●1回押すごとにHIGH(700mW)/
LOW(25mW)が切り換わります。



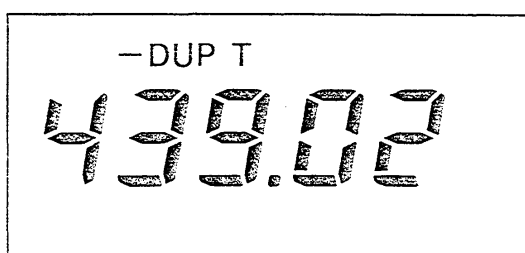
4 レピータ運用のしかた

■オートレピータ機能

本機は、オートレピータ機能を採用していますので、運用周波数を439.00MHz以上に設定するとレピータ運用モード(88.5Hzのトーン、-5MHzのシフト周波数のセット)に自動的に切り換わります。

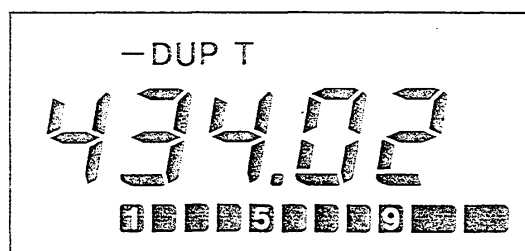
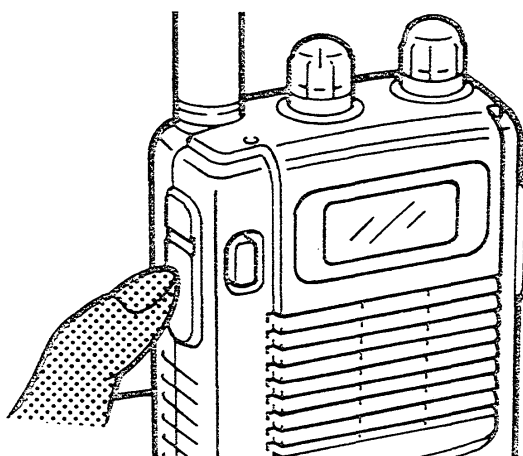
レピータの使い方

1. 周波数をセットする。



●レピータ運用に必要なものが自動的にセットされます。

2. **PTT** スイッチを押す。



※発射した電波が、レピータに届いていれば、ID信号(モールス符号または音声)が受信状態で聞こえます。

3. 交信に入る。

通常の交信と同様に交信します。

DUP(デュプレックス)モードの使い方

■送信と受信とが違う周波数で動作します。

●-DUPモード

送信周波数が受信周波数より、シフト周波数分低くなるモードです。

●DUPモード

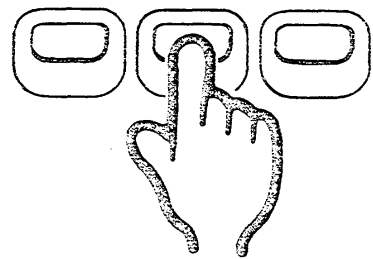
-DUPモードの逆の動作をします。

DUP(デュプレックス)モードにするには――

1. **DUP** スイッチを押す。

- 一度押すと、“-DUP”、もう一度押すと“DUP”、さらに押すと表示が消え、OFF状態になります。

V/M WRITE DUP SCAN T.SQL SET



- オートレピータ機能は、イニシャルセットモードで解除することができます。(⇒P24)
- また、トーン周波数、シフト周波数はセットモードで変更することが可能です。(⇒P27)

■送信モニターチェック機能

レピータ運用中、交信相手局とレピータを通さずに交信できるかどうか確認できます。

MONI スイッチを押して、相手局の信号が聞こえていればレピータを通さず交信可能です。439.00MHz以下へ移りましょう。

5 トーンスケルチ運用のしかた

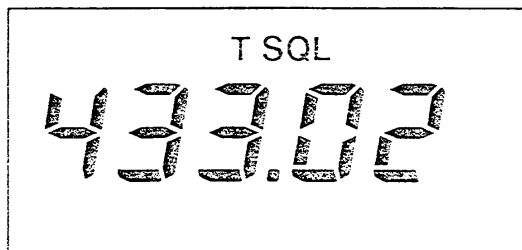
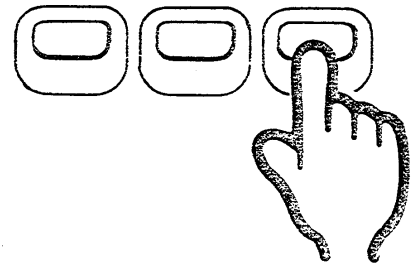
■トーンスケルチ機能

特定局間の呼び出し、待ち受けに便利なのがトーンスケルチです。あらかじめ決めたトーン周波数を含んだ信号を受信した時だけにスケルチが開くので快適な交信が楽しめます。

トーンスケルチの使い方

1. **T.SQL** スイッチを押して、トーン運用モードにする。

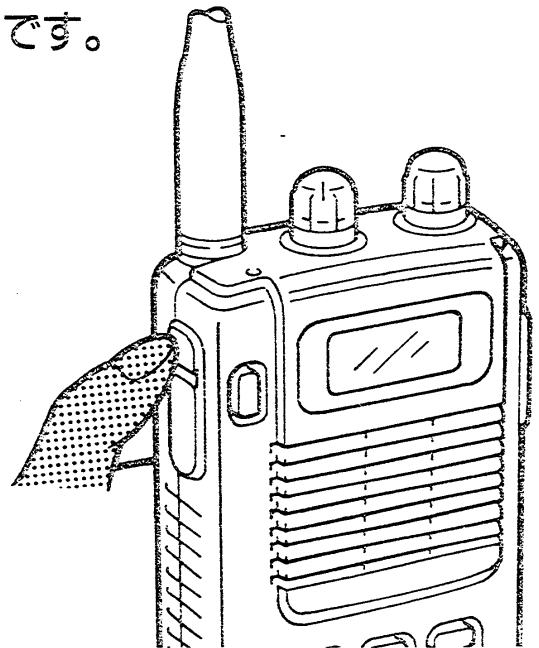
V/M WRITE DUP SCAN T.SQL SET



2. 送信、受信は通常の操作と同じです。

3. **MONI** スイッチを押すと、強制的にスケルチが開きます。

4. 解除は **T.SQL** スイッチを押す。



- トーン周波数はセットモードで38種類から選べます。(P20)
初期状態で88.5Hzが設定されます。

メモリーの使いかた 6

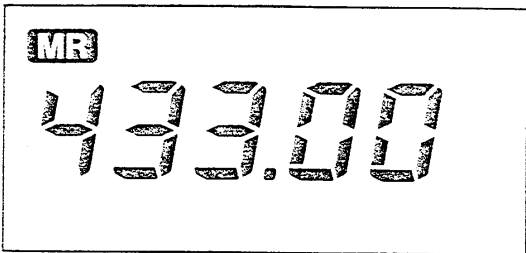
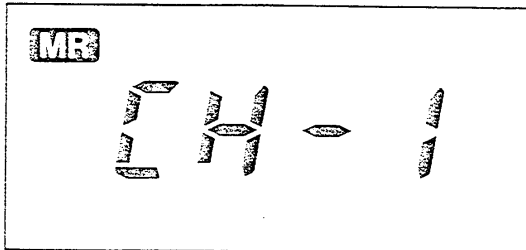
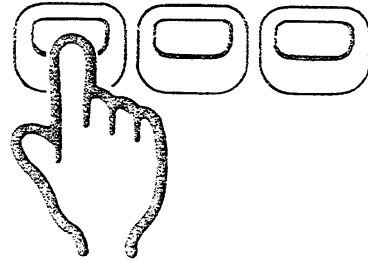
■メモリーチャンネルについて

よく使用する周波数や運用情報などを記憶できるメモリーチャンネルを20チャンネル内蔵しています。メモリーチャンネルで運用するにはメモリーモードにします。

メモリーモードにするには

1. **V/M** スイッチを押す。

V/M WRITE DUP SCAN T.SQL SET



●チャンネル番号「CH-1
~20」を約1秒間表示後、
メモリー周波数を表示し
ます。

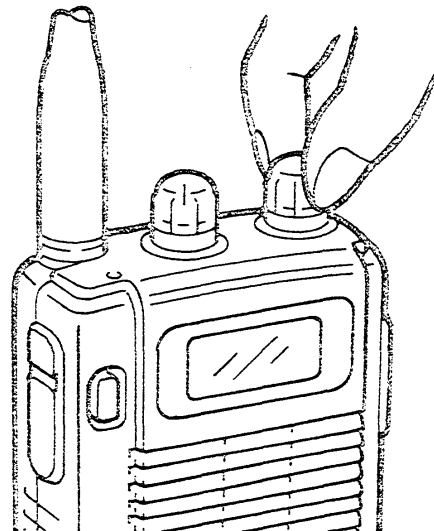
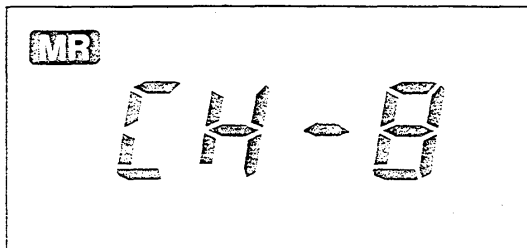
●メモリーモード時の表示は、イニシャルセットモードで4通りから
選べます。(⇒P26)

6 メモリーの使い方

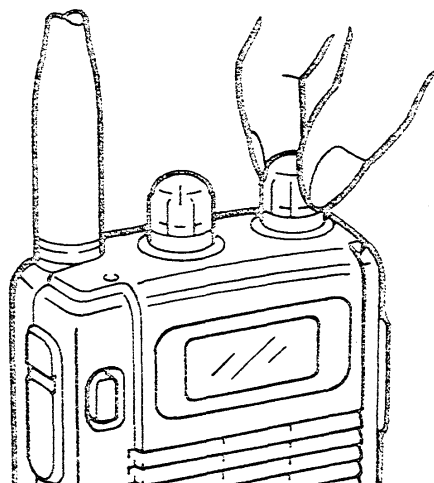
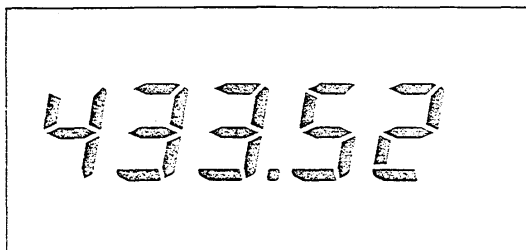
メモリー(記憶)のしかた

例. 8CHに433.52MHzを記憶させる

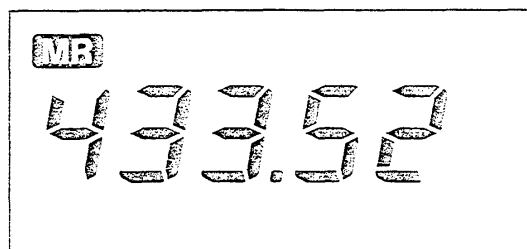
1. メモリーモードにする。
2. **ダイヤル** でCH-8をセット。(≠P16)



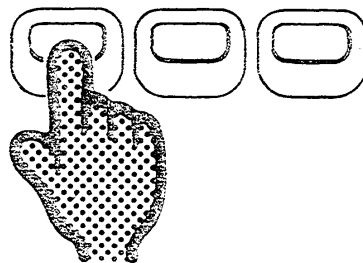
3. VFOモードする。
4. **ダイヤル** で433.52MHzをセット。



5. **V/M** (WRITE)スイッチ (ピッピッが鳴る)を長く押す。

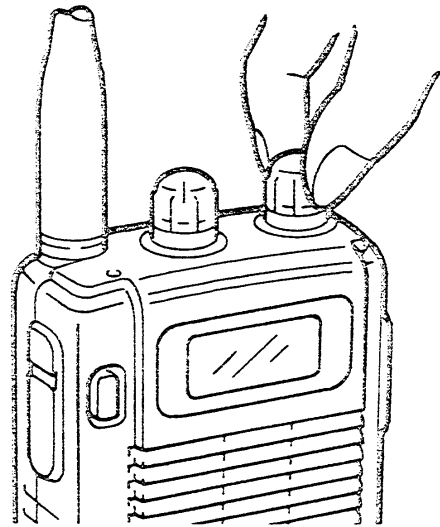
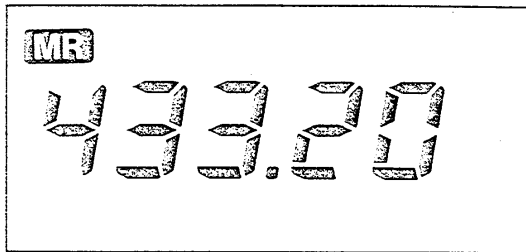


V/M WRITE DUP SCAN T.SQ SET



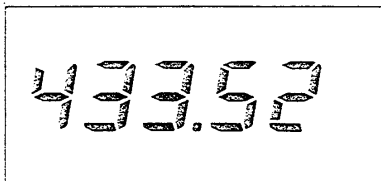
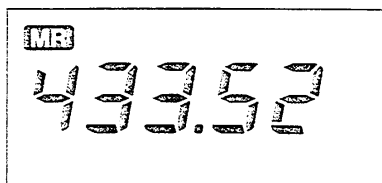
メモリーチャンネルの呼び出しかた

1. メモリーモードにする。
2. **ダイヤル**をまわす。

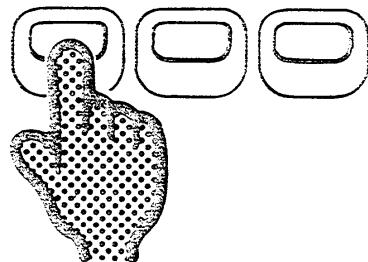


メモリー周波数をVFOへ転送するには

1. メモリーモードで希望チャンネルを呼び出す。
2. **V/M** (WRITE)スイッチを長く押す。(ピッピッが鳴る)



V/M WRITE DUP SCAN T.SQL SET



■メモリーチャンネルに記憶できる情報

- ①運用周波数
- ②デュプレックス+トーン
- ③オフセット周波数
- ④レピーターアクセス用トーン周波数
- ⑤トーンスケッチル用トーン周波数
- ⑥トーンスケルチの状態

7 スキャンのしかた

スキャンの種類と動作

1. VFOモードで動作するスキャン

イニシャルセットモードで「フルスキャン」と「1MHzスキャン」が選択できます。(⇒P25)

■フルスキャン

430.00MHz～440.00MHzをスキャンします。

■1MHzスキャン

1MHzの範囲内で、スキャンを行います。

433.00MHzを表示の場合は433.00～434.00の1MHz間をスキャンします。

※表示が440.00MHzの場合は動作しません。

2. メモリーモードで動作するスキャン

■メモリースキャン

CH-1～CH-20の間をスキャンします。

3. スキャンの動作

スキャン中に信号を受信すると、その周波数を約10秒間受信します。

●約10秒間たつと自動的にスキャンが再スタートします。

●一時停止中に受信信号がなくなれば約2秒後に再スタートします。

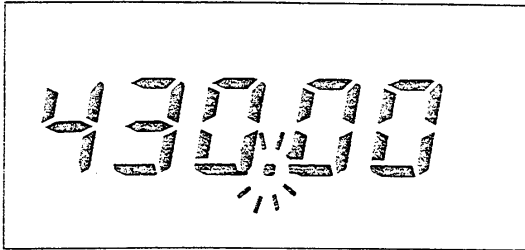
※トーンスケルチをセットしてスキャンした場合、トーン周波数が一致した信号で一時停止します。

スキヤンのスタート/ストップ

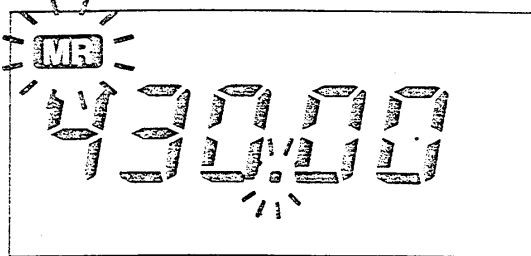
1. スタートさせるときは

DUP (スキヤン)スイッチを
長く押す。

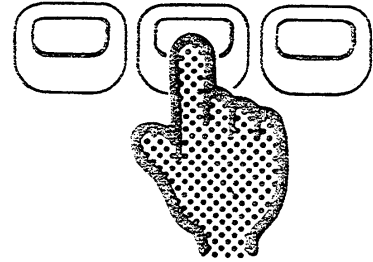
VFOモード時



メモリーモード時



V/M WRITE DUP SCAN T.SQ L SET



●VFOモード時はフルスキヤンか1MHzスキヤン。メモリーモード時はメモリースキヤンです。

2. ストップさせるときは

もう一度 **DUP** (スキヤン)スイッチを長く押す。

PTT を押してもストップします。

※スキヤン中に **ダイヤル** をまわすと、その方向でアップスキヤン
ダウンスキヤンが切り換わります。

※信号受信で停止しているときに、**ダイヤル** をまわすと再スタート
します。

8

セットモードについて

■セットモードでは、運用中に変更されされることの多い設定を4項目にしぼり、簡単な操作でセット可能としています。

セットモードの項目は①周波数ロック、②トーンスケルチ機能のトーン周波数の設定、③レピータアクセス時のトーン周波数の設定、④デュプレックス時のシフト周波数の設定の4項目です。

セットモードの操作

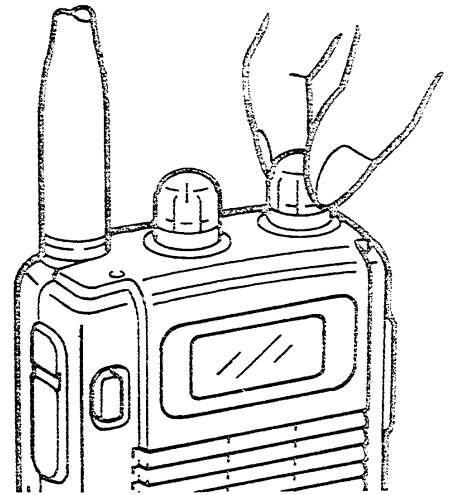
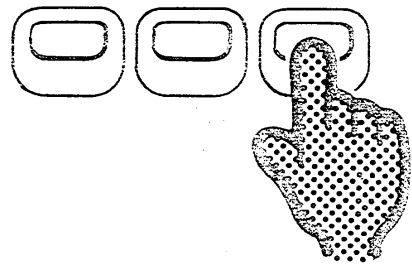
1. **T.SQL** (SET)スイッチを長く押す。

2. **V/M** または **T.SQL** スイッチで項目を選ぶ。

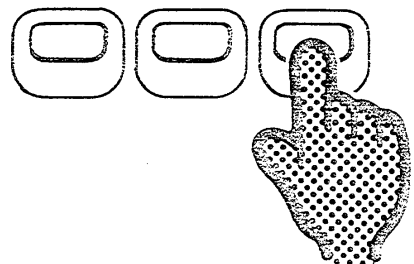
3. **ダイヤル** をまわして運用に適した内容をセット。

4. **T.SQL** スイッチを長く押す。
または **PTT** スイッチを押すと、元の状態に戻ります。

V/M WRITE DUP SCAN T.SQL SET



V/M WRITE DUP SCAN T.SQL SET

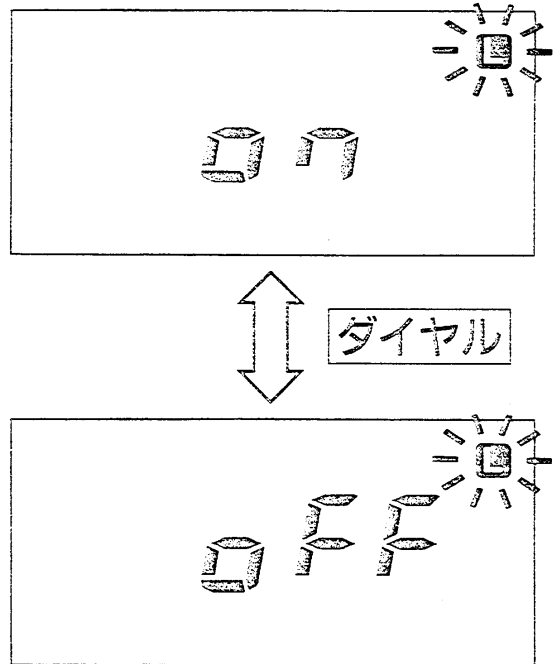


①周波数ロック機能

●VOL PTT MONI
LIGHT (H/L)以外の操
作を無効にします。

※周波数ロック機能動作時はL
が点灯。

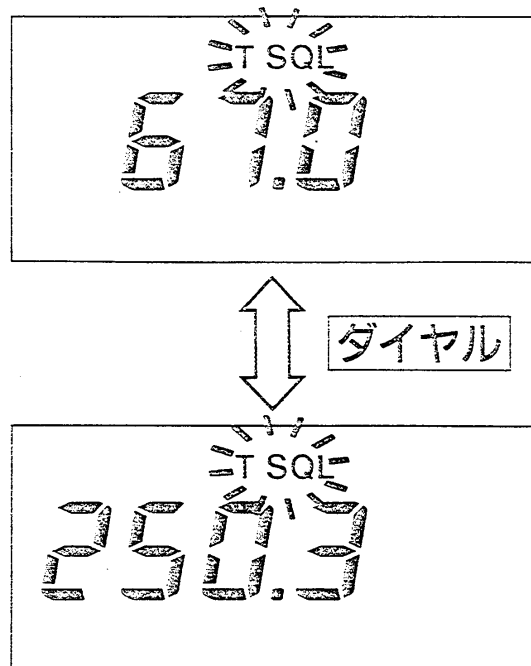
※初期設定はOFFです。



②トーンスケルチ機能のトーン周波数設定

●38種類のトーン周波数から選
択できます。

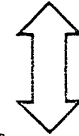
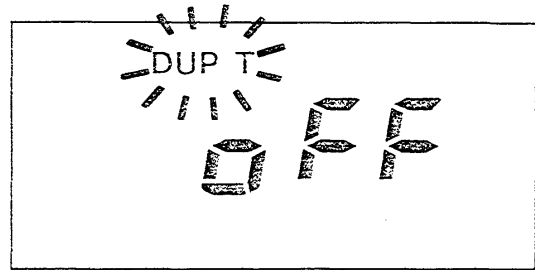
※初期設定は88.5Hzです。



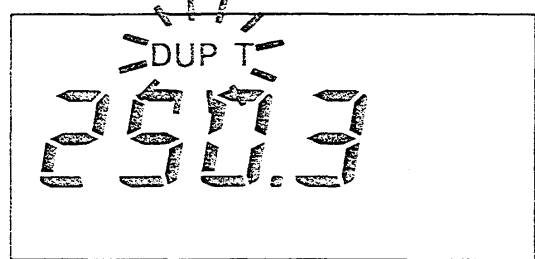
8 セットモードについて

③レピータアクセス時のトーン周波数の設定

- OFFと38種類のトーン周波数が選べます。



ダイヤル

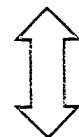
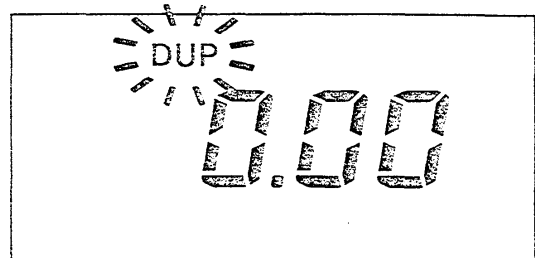


※初期設定は88.5Hzです。

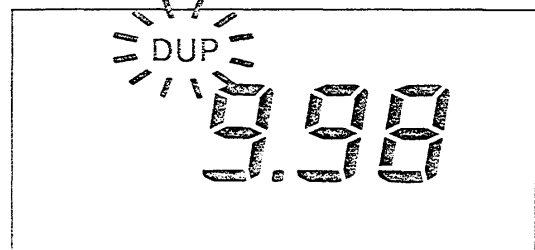
※OFFに設定するとオートレピータ機能、DUP(デュプレックス)モード動作時に“T”が消灯します。

④デュプレックス時のシフト周波数の設定

- オートレピータ機能、デュプレックス送信時のシフト周波数が、0~9.995MHzの範囲で設定できます。



ダイヤル



※初期設定は5MHzです。

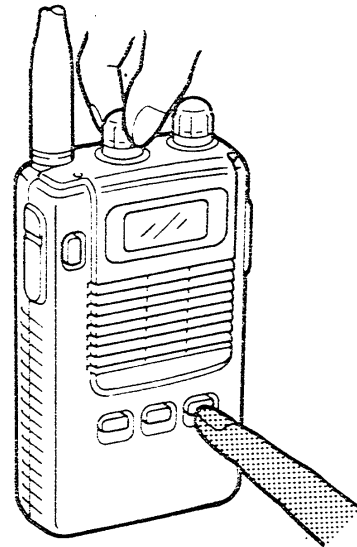
■イニシャルセットモード

運用スタイルに合わせて、各種機能を設定し、より使いやすい無線機に仕上げるためのモードです。8項目の機能を、お好みに応じてセットしてください。

イニシャルセットモードの操作

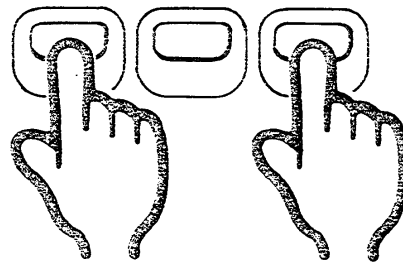
1. **T.SQL** (SET)スイッチを押しながら電源を入れる。

※約1秒間ビープ音の後、ピッピッと鳴りイニシャルセットモードになる。

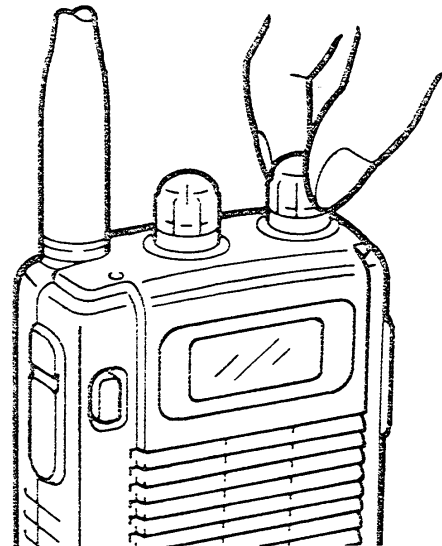


2. **V/M** または **T.SQL** スイッチで項目を選ぶ。

V/M WRITE DUP SCAN T.SQL SET



3. **ダイヤル** をまわして運用に適した内容をセットする。

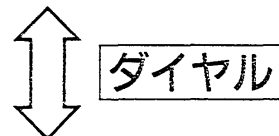
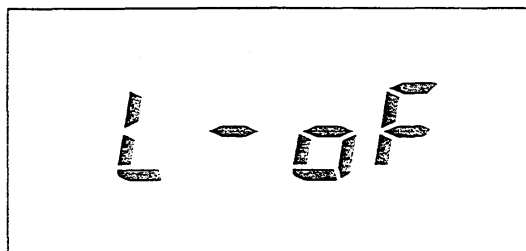


4. 電源を切ってイニシャルセットモードを解除します。

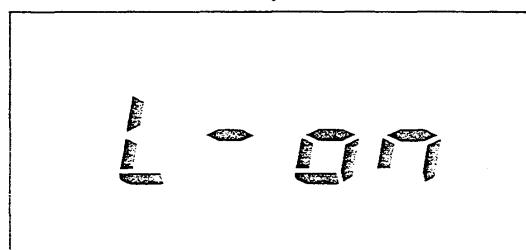
9 イニシャルセットモードについて

①イニシャルロック機能

●操作をより簡単にするため、前面パネルの **V/M** (WRITE)、**DUP** (SCAN)、**T.SQL** (SET)の機能を無効にします。



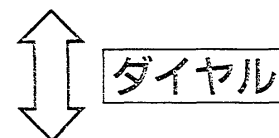
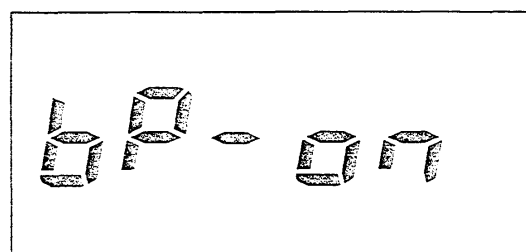
※この機能をONにしたのち、無効スイッチを操作すると右下段の表示になります。



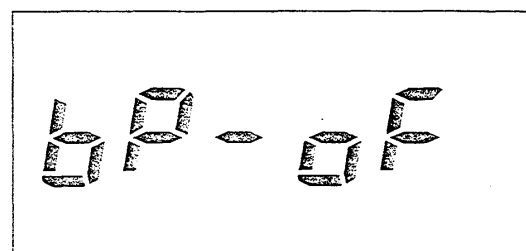
※初期設定はOFFです。

②ビーブ音の選択

●操作が正しく行われたかを示させるビーブ音のON/OFFを選択できます。



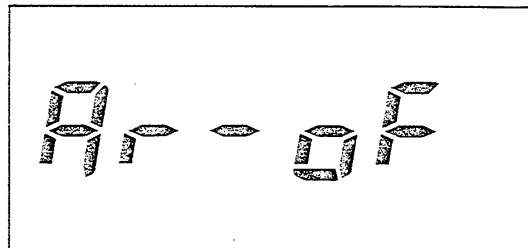
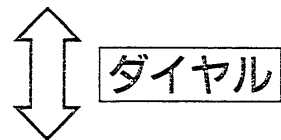
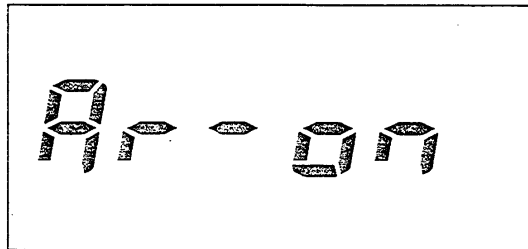
●ビーブ音は、白色文字のスイッチの操作の“ピッ”、青色のスイッチの操作の場合“ピッピッ”、誤操作時に“プッ”と鳴ります。



※初期設定はONです。

③オートレピータ機能

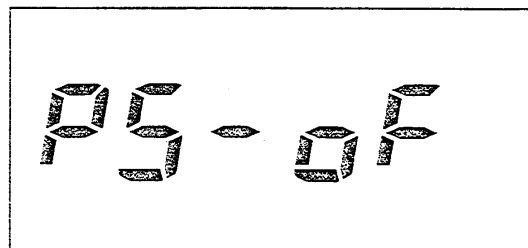
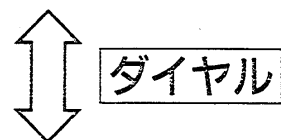
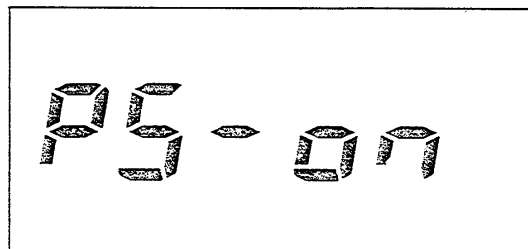
●オートレピータ機能を、ON/OFFすることができます。



※初期設定はONです。

④パワーセーブ機能

●本機には、電池の消耗を抑えるパワーセーブ機能が搭載されています。
この機能のON/OFFが選択できます。

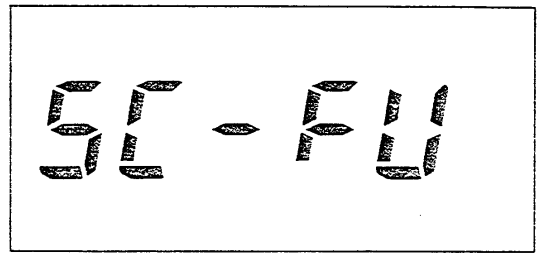


※初期設定はONです。

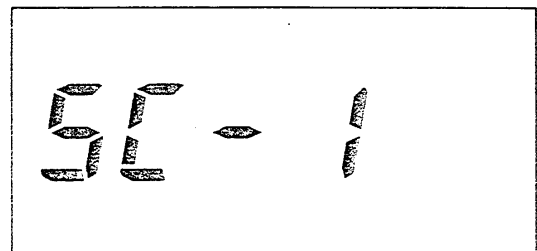
9 イニシャルセットモードについて

⑤フルスキャン/1MHzスキャン選択

- VFOモード時のフルスキャンと1MHzスキャンの選択ができます。



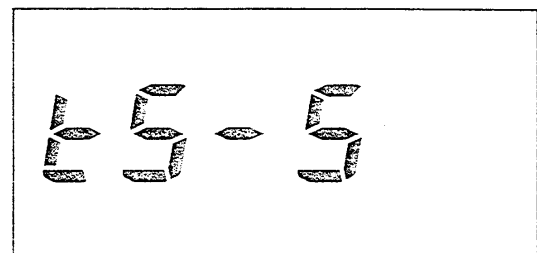
ダイヤル



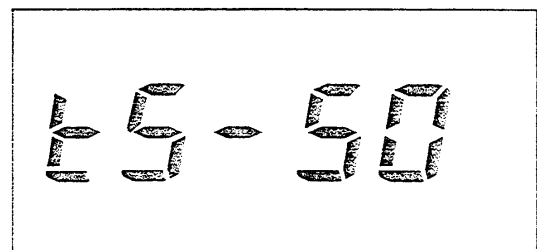
※初期設定はフルスキャンです。

⑥周波数ステップ(TS)の設定

- 周波数ステップとはダイヤルで選局操作を行うときに、変化する周波数幅をいいます。
- 本機は5/10/12.5/20/25/50 kHzの中から選択できます。
- この周波数ステップはスキャン動作時にも設定したステップでスキャンします。



ダイヤル



※初期設定は20kHzです。

⑦メモリーモード時の表示設定

●メモリーモード時の表示方法が4種類の中から設定できます。

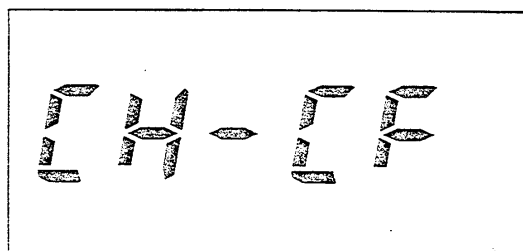
CF...メモリーチャンネルを1秒間表示後、運用周波数表示。

FC...運用周波数を1秒間表示後、メモリーチャンネルを表示。

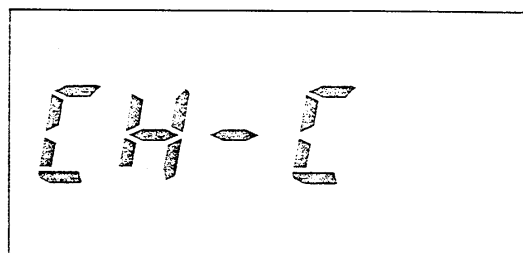
C.....メモリーチャンネルだけの表示。

F.....運用周波数だけの表示。

※初期設定はCFです。



ダイヤル

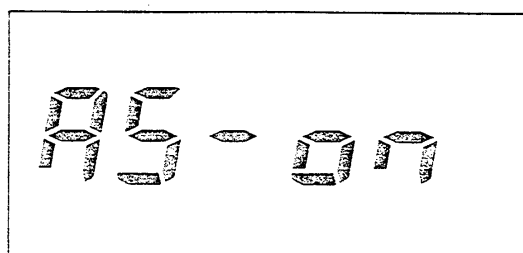


⑧スケルチ動作の選択

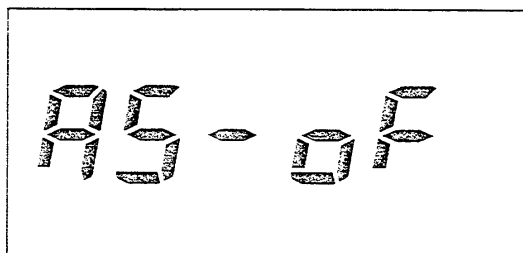
●本機は雑音を抑えるために一定レベルに設定したスケルチ回路を内蔵しています。弱い信号を受信したときでも、音声の途切れを少なくしています。

このスケルチ機能をON/OFFします。

※初期設定はONです。



ダイヤル



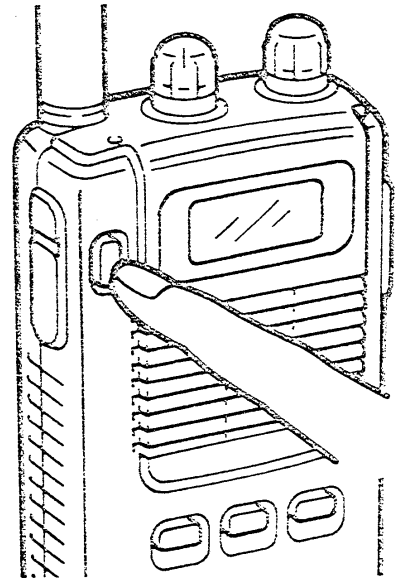
10 その他の機能

LCDバックライト(ディスプレイの照明)

■夜間での運用や、暗い場所で運用するときに、ディスプレイにバックライトを点灯させます。

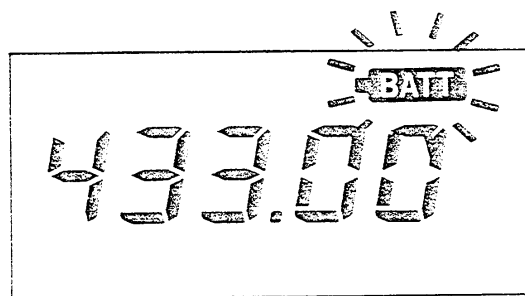
1. 点灯するには
LIGHT スイッチを押す。
2. 消灯するには
LIGHT スイッチを押す。

●点灯後、約10秒で自動消灯します。
(操作状態中は消灯しません)



減電圧表示機能(電池交換の目安)

■使用している電池の電圧が4V以下になったときにディスプレイ上に電池マークが点灯して、電池の寿命が残り少ないことをお知らせします。



●このマークが点灯しても、約1時間程度の運用は可能です。

電池について

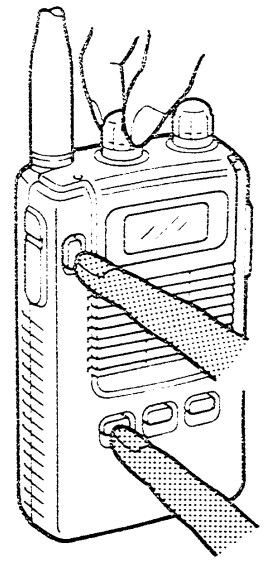
■乾電池は、気温が低下するほど容量の減少が著しくなります。通常、乾電池の使用可能な温度の下限は、 -10°C とされていますから、寒冷地でご使用になる場合は、電池部分を温かくして(充分保温する)ご使用ください。また高容量のアルカリ電池のご使用をすすめします。

- 電池寿命を長くするために
 - 送信時間をできるだけ短くする。
 - 受信音量を小さくする。
 - 使用しないときには、必ず電源を切っておく。
 - 連続使用をさける。

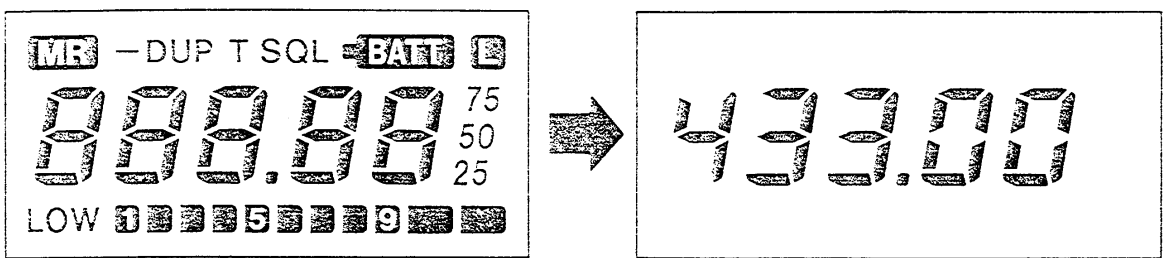
リセット操作について

■ディスプレイの表示が異常なときや、メモリーの内容を消去したいときは、次のリセット操作を行ってください。

1. **LIGHT** スイッチと**V/M** スイッチを押しながら、電源を入れる。



※リセット後の表示



故障かなと思っても

■下記にあげた状態は故障ではありません。故障かなと思っても、もう一度点検してください。それでも異常があれば弊社営業所までご連絡ください。

状 態	原 因	処 置
●電源が入らない	◎電池の極性まちがい ◎電池の消耗	○電池を入れなおす (⇒P1) ○電池を交換する (⇒P1)
●スピーカーから音がでない	◎VOLツマミが反時計方向になっている ◎外部スピーカーを接続している	○時計方向にまわし、聞きやすい音量にする (⇒P7) ○ケーブルが正常に接続されているか、断線していないか点検する
●感度が悪く、強い局しか聞こえない	◎同軸ケーブルの断線またはショート (外部アンテナ使用時)	○同軸ケーブルを点検し、正常にする
●電波が出ないか、電波が弱い	◎LOWパワーになっている ◎電池の消耗	○ハイパワーにする (⇒P10) ○電池を交換する (⇒P1)
●ダイヤルを回しても周波数設定ができない	◎周波数ロックになっている ◎メモリーモードになっている	○ロックを解除する (⇒P20) ○VFOモードにする (⇒P8)
●前面のスイッチが動作しない	◎イニシャルロックになっている	○イニシャルロックを解除する (⇒P23)
●周波数表示が異常な表示になる	◎CPUが誤動作している	○CPUリセットを行う (⇒P28)
●メモリーの内容が変わっている	◎CPUリセットを行った	○メモリーをしなおす (⇒P16)

アフターサービスについて

■機械が故障したときは

●保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●修理を依頼される時

「故障かなと思って」にしたがってもう一度調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

●保証期間中は

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

●保証期間後は

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にご連絡ください。修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

●アフターサービスについてわからないときは

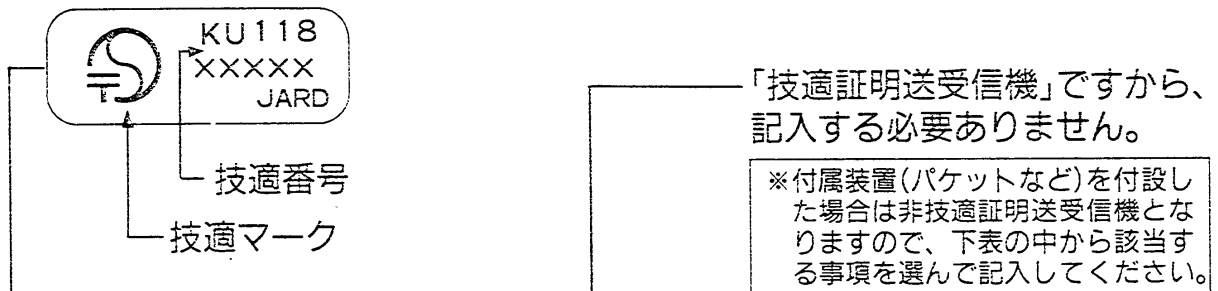
お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

12 免許の申請のしかた

■本機は、「技術基準適合証明」を受けた機械です。開局申請書類の中の「無線局事項及び工事設計書」には、次のように記入してください。

IC-3Jの申請

本機の後面パネルに技適証明マークとKからはじまる技適証明番号が印刷されたシールを貼っています。その番号を記入してください。

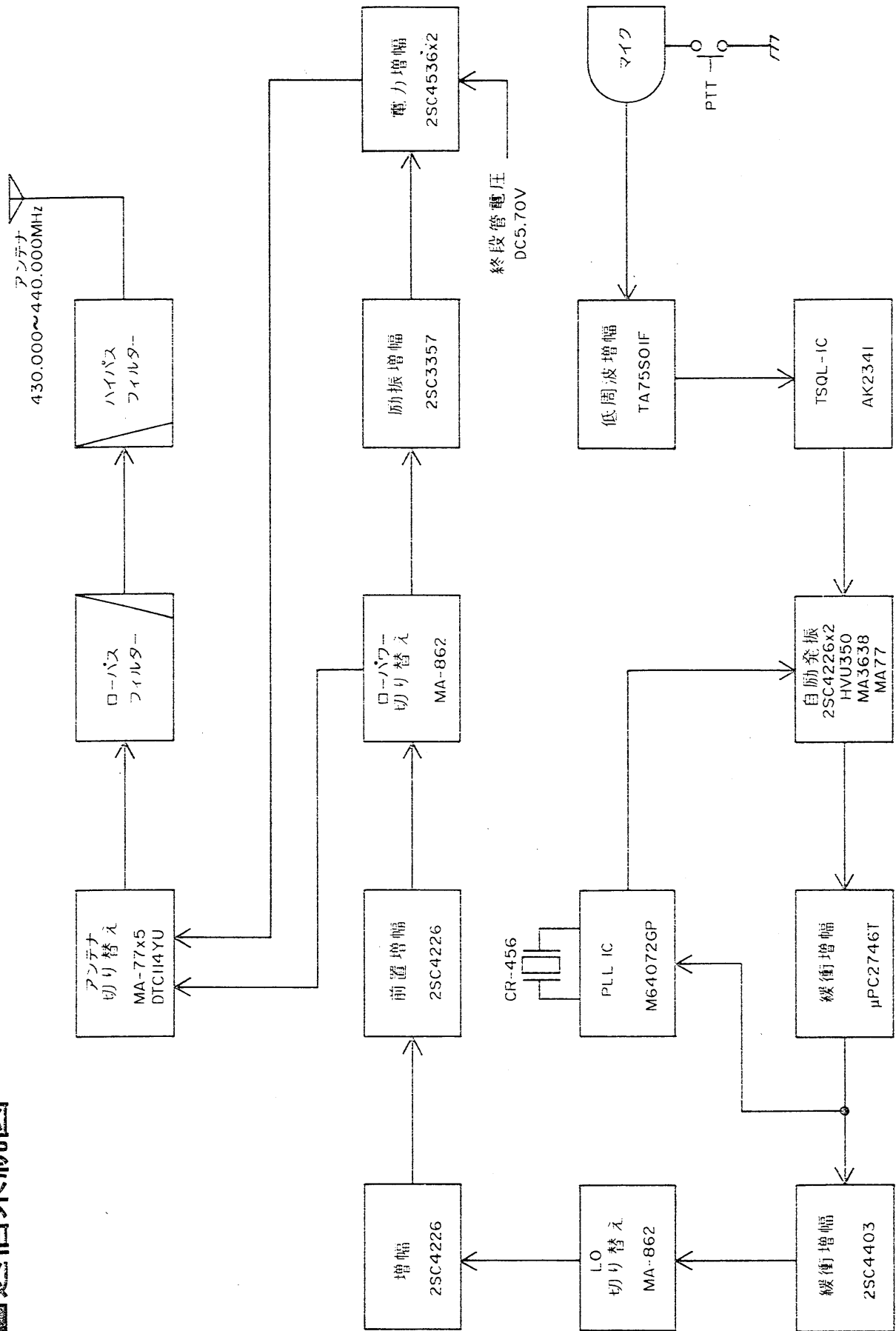


21 希望する周波数の範囲、空中線電力、電波の型式						
周波数帯	空中線電力	電波の型式		周波数帯	空中線電力	電波の型式
430M	10	F3))))
))))
))))
))))
))))

22 工事設計		第1送信機		第2送信機		第3送信機		第4送信機	
変更の種別		取替	増設	撤去	変更	取替	増設	撤去	変更
技術基準適合証明番号		KU118xxxxx							
発射可能な電波の型式 周波数の範囲		F3 430MHz帯							
変調の方式		リアクタンス変調							
定格出力		0.7W							
終段管	名称	2SC4536×2							
	電圧	DC5.7V		V		V		V	
送信空中線の型式		単一型				周波数測定装置		A有(誤差) B無	
その他の工事設計		電波法第3章に規定する条件に合致している。				添付図面		<input type="checkbox"/> 送信機系統図	

付属のアンテナで申請するとき
は「単一型」と記入してください。

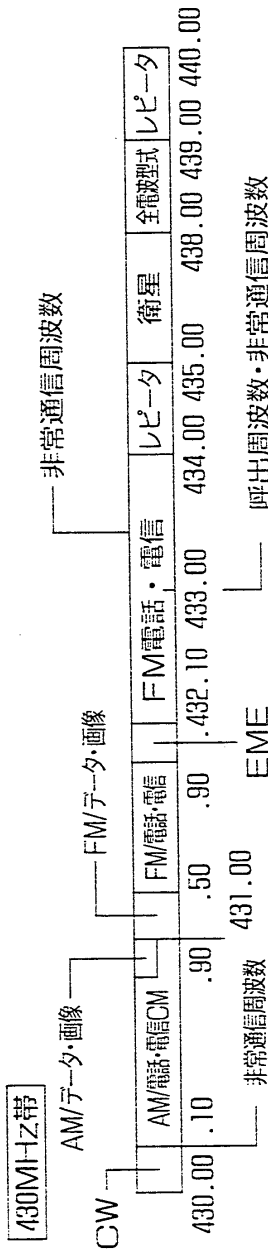
送信系統図



■ バンドの使用区別について

電波を放射するときは、下記の使用区別図にしたがって運用してください。

1. 使用区別図



2. 使用区別図の表示について

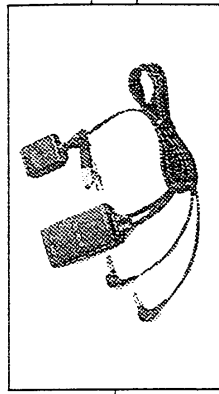
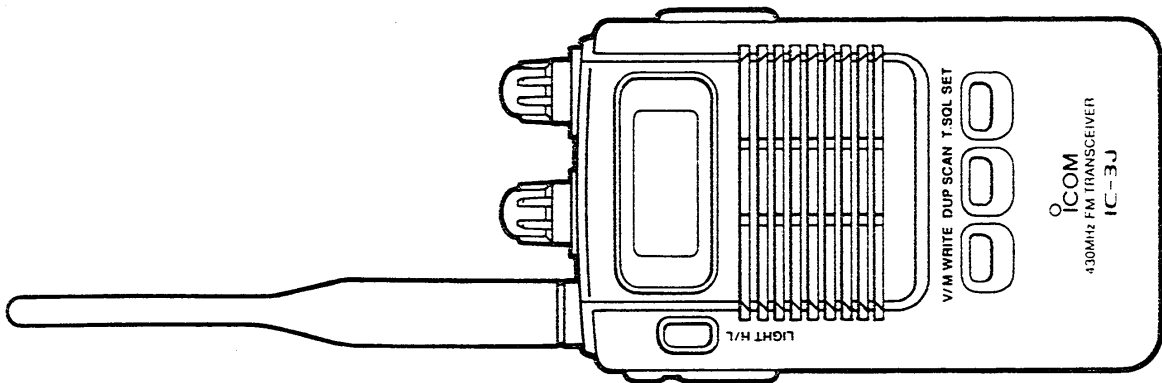
- TVはテレビジョン伝送を行う電波をいう。
 - 衛星は、衛星通信に使用する電波をいう。
 - EMEは、月面反射通信に使用する電波をいう。
 - 全電波型式は、各アマチュア局に指定されるすべての電波の型式とする。
 - レピータは、JARL(日本アマチュア無線連盟)のアマチュア業務の中継用無線局(レピータ局)との通信に使用する電波をいう。
- ※ 使用区別図中の「呼出周波数・非常通信周波数」及び「呼出周波数」はFM/電話・電信の電波による連絡設定の通信を行う場合に使用することになります。
- ※ 使用区別図中の「非常通信周波」は、非常通信が実施されていない場合は、その他の通信に使用することができます。

電波を放射するまえに

ハムバンドの近くには、多くの業務用無線局の周波数があり、運用されています。これらの無線局の至近距離で電波を放射すると、アマチュア局が電波法令を満足していても、不測の電波障害が発生することもありますので、十分ご注意ください。

特に次の場所での運用は原則として行わず、必要な場合は管理者の承認を得てください。民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、業務用無線局および中継局周辺など。

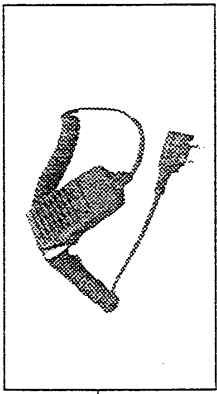
オプション (別売品)



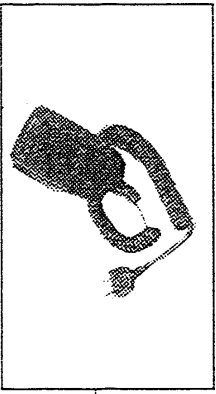
● HS-71 VOX機能付スイッチパッド



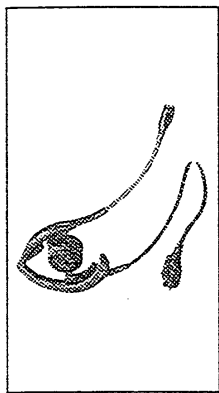
● HS-85 VOX機能付ヘッドセット



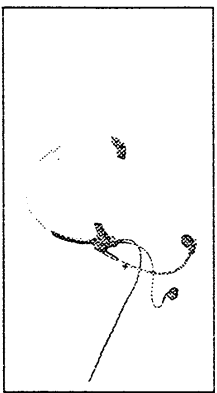
● HM-46L 小型スピーカマイクホン



● HM-54 スピーカマイクホン



● HS-66 ヘッドセット (耳かけタイプ)



● HS-72 ヘッドセット

※ VOX機能：PTTを使わないで音声による送受信切り換え機能のこと。

- MB-30 モービルブラケット
- MB-46 ワニクチベルトクリップ

14 定格

〈一般仕様〉

周波数範囲	: 430~440MHz
電波型式	: FM(F3)
メモリーチャンネル数	: 20CH
アンテナインピーダンス	: 50Ω不平衡
アンテナ端子	: SMA型
電源電圧	: DC6V標準 DC3.6~7.2V動作可
接地方式	: マイナス接地
消費電流(6.0V時)	: 送信時 HIGH 約400mA LOW 約75mA 受信時 定格出力時 約140mA パワーセーブ時 約8mA(平均)
使用温度範囲	: -10°C~+60°C
周波数安定度	: ±10ppm(0°C~+50°C)
外形寸法	: 58W×100H×25Dmm(突起物を除く)
重量	: 約190g(単三形マンガン乾電池4本、アンテナを含む)

〈送信部〉

送信出力(6.0V時)	: HIGH 700mW LOW 25mW
変調方式	: リアクタンス変調
最大周波数偏移	: ±5KHz
スプリアス発射強度	: -40dB以下
マイクロホンインピーダンス	: 2KΩ

〈受信部〉

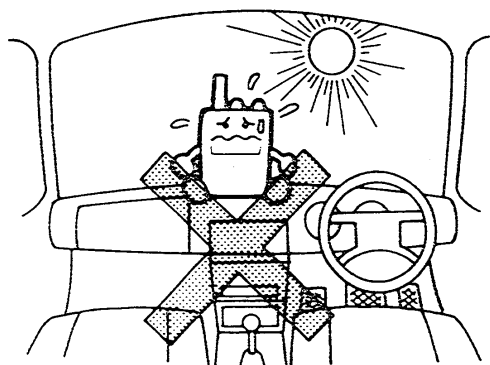
受信方式	: ダブルスーパーヘテロダイン方式
中間周波数	: 1st 35.8MHz 2nd 455kHz
受信感度(12dB SINAD)	: -15dBμ以下
スケルチ感度	: -15dBμ以下
選択度	: 15kHz以上/-6dB 30kHz以下/-60dB
スプリアス妨害比	: 50dB以上(但し、ハーフィメージは除く)
低周波出力	: 0.2W以上(DC6.0V、8Ω負荷、10%歪時)

(注) 定格はJAIA測定法によります。

(注) 定格・仕様・外観等は・予告なく変更になることがあります。

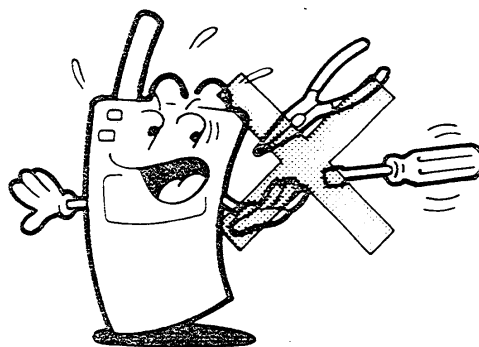
ご注意

■直射日光のあたるところに、長時間放置しないでください。



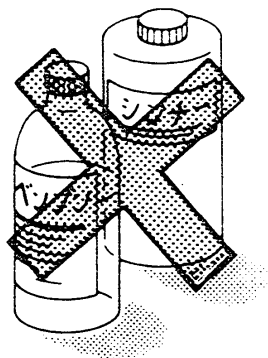
高温、多湿、ホコリの多いところもさけてください。

■内部のトリマーやコアを、さわらないでください。



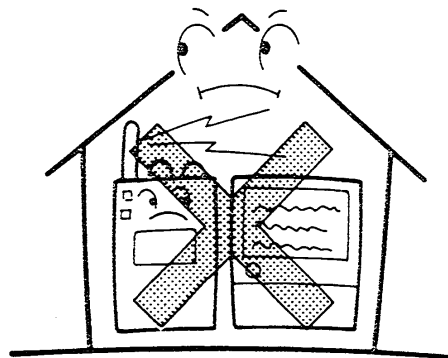
故障の原因になります。

■シンナーやベンジンは絶対に使わないでください。



機械のヨゴレは、柔らかい布でふいてください。

■室内で送信すると、電波障害を起こすことがあります。



外部アンテナをご使用ください。

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本社	547 大阪市平野区加美東6丁目9-16	TEL (011)251-3888
北海道営業所	060 札幌市中央区大通東9丁目14	TEL (022)285-7785
仙台営業所	982 仙台市若林区若林1丁目13-48	TEL (03)5600-0331
東京営業所	130 東京都墨田区緑1丁目22-14	TEL (052)842-2288
名古屋営業所	466 名古屋市昭和区長戸町2丁目16-3	TEL (0762) 91-8881
金沢出張所	921 金沢市高島1丁目335	TEL (06)793-0331
大阪営業所	547 大阪市平野区加美南1丁目8-35	TEL (082)295-0331
広島営業所	733 広島市西区観音本町2丁目10-25	TEL (0878) 35-3723
四国営業所	760 高松市塩上町2丁目1-5	TEL (092)541-0211
九州営業所	815 福岡市南区塩原4丁目5-48	

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。

A-5288S-1J
1994 © Icom Inc.